

国際保全パートナーズ

# UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

1461-136-202 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan  
Phone: +81(70)4486-6609

---

## 2023年度上半期(2023年8月~2024年1月)事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

### <ハイライト>

- ・地球環境基金「つづける助成」による、コンゴ民主共和国(DRC)のボノボエコツアー復興活動2年目。昨年度に続き、協働団体MMTの現地活動支援とUAPACAAからの現地視察、イベント開催。
- ・一般財団法人JICS NGO支援、3年目は一般募集でDRCプロジェクトの直接支援に採択された。2024年度に実施する、Mbali地区へのプロポリス養蜂導入フィージビリティ調査に160万円が支給される。
- ・12月~1月にREADYFORで、2022年末に続くカメルーン・ロベケ国立公園密猟対策支援の緊急募集クラウドファンディングを実施。“All in”方式で目標額870万円に対し357.5万円と、2022年末とほぼ変わらぬご寄附が集まった(<https://readyfor.jp/projects/LobekeDjanguiprotection>)。
- ・昨年度と同時期の8~9月の約2カ月間、岡安がDRCのボノボの里Mbaliとカメルーン・ロベケ国立公園現地視察のため出張。9/1(Mbali)、9/23(ロベケ)と現地中継を試みるも接続に支障が発生した。
- ・2023年10月17日に7期第1回オンライン理事会を開催し、理事6人の出席(2名は書面表決)を得て成立。2022年度(2022年8月~2023年7月)事業報告と決算に承認を得て通常総会に上程した。また役員任期満了(9月27日)で次の総会で改選されるので、役員候補を選任し内諾を得て上程した。
- ・理事会の表決に従い、10月21日にハイブリッドで第7期通常総会を開催し、正会員15人のうち14人(うちオンライン出席5名、書面表決4名)の賛成を得て、2022年度事業報告・決算報告が承認された。また新役員候補も全員、選任された。
- ・10月21日続いて新役員による理事会を開催し、新理事6名(オンライン出席2名、書面表決2名)の賛成を得て、岡安が代表理事に選定された。2年間代表権を持つ理事として法務局に変更登記を行った。

### <事業活動方針にかかる報告(2023年8月~2024年1月分)>

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国(DRC)の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

#### ① 自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

- ・感染症対策にも役立つプロポリス養蜂の、アフリカの現場への導入に向けた施策；出張で現状確認
  - カメルーンのロベケ国立公園周辺コミュニティの養蜂業整備
    - ◇ 8月に募集のあったデロイトトーマツ財団の助成金は不採択だった(全て国内プロジェクト)
    - ◇ 資金調達に関しては、新規プラットフォームのクラウドファンディングの検討を行う
    - ◇ 9月の視察で現場で養蜂業の導入を組織的・継続的に行う必要性が判明(生薬Pチームと連携)
  - DRCのMbali地区では、WWF DRCのコミュニティ支援ですでに養蜂業が導入されている
    - ◇ 2024年度JICS助成金+歳末たすけあい寄附で1年目のフィージビリティ調査は可能
    - ◇ 3月の地球環境基金「ひろげる助成」(800万円)の結果次第で、3年計画で推進する
    - ◇ WWF DRCの撤退で、養蜂技術を持つ村人のチームが、商業ベースの養蜂推進に至っていない

## ② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

### ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援
2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング
3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

- ・ 9月の視察で、2022年のビジター数60人と回復傾向が確認できたが、400人の年間目標には遠い。
- ・ ゴリラの人づけに向けて、Pont Casseのトランゼクト・モニタリングが再開していた。ただし、モニタリングの手法をコロナ前と統一し、野生動物の分布や密度変化を比較できるようにする必要がある。
- ・ プチ・サバンナのマルミミゾウは前年来の傾向が続いており、さらに観察台に人が居ても、朝6時半の明るい時間帯にバイに水浴びに出てきて、昨年来の支援が奏功していることが確認できた。
- ・ 他方、2021年にマルミミゾウの密猟があったジャンギでは、今回も夜間に重火器の発砲音が確認され、密猟のリスクが迫っている兆候があった。帰国後、支援者向けのアピールを開始し、12月～1月にクラウドファンディングを実施した結果、2024年も資金的・技術的支援を継続できる目処が立った。

### イ コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践
2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの地場産業開発を通じた生物多様性保全

- ・ 2023年度地球環境基金の「つづける助成」で、エコツアー復興支援2年目。2024年2月のリアルツアー催行を目指す。年末の総選挙実施に伴い延期。新しいボノボ・グループの人づけ支援を継続。
- ・ 2022年度に続き、エコツアー説明会も兼ねて、オンライン・イベント・シリーズを1月に再開。
- ・ 2. の地場産業創設の機会を探るため、前述のJICS助成金でプロポリス養蜂導入可能性を検証する。

## ③ 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

### ア ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

1. TraMCAランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援

- ・ アジアゾウ保護に向けた大型プロジェクトは、外部協力者からの資金調達の目途が立っていない。

### アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・ 広報アシスタントが就職のため退職し、後任者の定着が遅れたが、12月から開始したクラウドファンディング募集期間には間に合い、現場の狩猟採集民の暮らしぶりなどリアルな情報発信が充実した。
- ・ クラウドファンディング期間中は、新着情報（活動報告）の発信にバラエティを持たせるなど力を入れたところ、前回以上の効果が得られ、支援者数は少ないが同レベルの資金調達に結びついた。
- ・ 9月から音楽関係の広報アシスタントの参画があり、インスタグラムを中心に活動内容のリアル動画の定期配信を開始。なかなか増えなかったフォロワーが、徐々に増加に転じている。
- ・ アフリカ中部滞在中、ウェブアプリにアクセスできない、WiFiの細さで現地中継ができない、という広報上の弱点は、現地のオンライン人口増加と脆弱なインフラ問題でさらに深刻化している。

### <その他の事業>

#### ① 書籍の出版・販売

海外出張も再開され、その対応に時間を取られるため、今年度は行っていない。

※ 上半期予算進捗（2023年8月～2024年1月）に関して、中間決算報告書を添付する。 以上

国際保全パートナーズ

# UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

Famille Hayama 202

1461-136 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(90)4010-5906 Email: [admin@uapacaa.org](mailto:admin@uapacaa.org)

<https://www.uapacaa.org/>

## 2023年度下半期(2024年2月~2024年7月)事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

### <ハイライト>

- ・地球環境基金「ひろげる助成」に、コンゴ民主共和国(DRC) Mbali の持続可能な農村開発事業(3年間; 初年度予算 670 万円)で採択された。「ボノボ・エコツアー復興」支援に加え「ホロホロチョウの蓄養」と、当法人の地域横断的活動である「プロポリス養蜂の導入」に向け、コミュニティ開発を展開する。
- ・上期報告にある READYFOR のクラウドファンディングに加え、独自に歳末たすけあいキャンペーン(DRCのボノボプロジェクト)や寄附呼びかけを行った結果、年間で寄附総額約1,300万円を調達した。
- ・2月末に1年間の支援が完了した、カメルーン・ロベケ国立公園、ポン・カッセのガードポスト運営支援を更新。WWFカメルーンと、2025年3月末までの13ヶ月間の覚書を締結し、4回に分けた送金を開始。
- ・2024年7月13日にZoom理事会を開催し、理事6人の出席(2名は書面表決)を得て成立。2024年度(2024年8月~2025年7月)事業計画・予算案を臨時総会に上程した(議長はキンシャサより参加)。
- ・みなし通常総会を開催し、正会員15人全員の賛成を得て、2024年度事業計画と予算が承認された(2024年8月1日; 期末から1日遅れて成立したが、計画と予算の執行に問題ないことは、県に確認済)。

### <事業活動方針にかかる報告(2024年2月~2024年7月分)>

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国(DRC)の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

#### ① 自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

- カメルーン・Douala 大学の生薬実用化(創薬)チームの報告書が最終化された。プロポリスとそれ以外の生薬の薬効成分配合は難しそうであるが、秋にチームメンバーとオンライン最終報告会を行う。
- ロベケ国立公園周辺コミュニティの養蜂業整備
  - ◇ 今期調達資金の中から、次期のプロポリス養蜂の整備活動に、最大300万円を配分可能(DRC込)
  - ◇ WWF ロベケの養蜂担当者、西部バフッサム近郊の養蜂園視察。蜂蜜以外にも多様な産品を扱い、アルコール浸潤のプロポリス・サプリメントも製品化されていた(協力者武田漢方医に進呈)。
  - ◇ 同じく近郊のDchang 大学附属研究所で、1000個の養蜂箱を管理する技官にヒヤリング。蜂蜜採取とプロポリス生産とのバランス管理など、養蜂運営情報を入手できた。ただし養蜂箱の設置場所がバコシという危険地区で、実際の視察は断念した。ロベケへのこの技官の出張研修を検討する。
- DRC・Mbali 地区の養蜂業整備
  - ◇ DRC では養蜂が未発達で、野生の蜂蜜が自家消費に流通しており、保存状態が悪く価格も低い。
  - ◇ キンシャサ大学農業経済科学部の Patrick 研究室が Kongo Central 州の養蜂家と協働し、百貨蜜の商品化に向け初期段階にある。主にケニアの養蜂研究チームと共同研究しており、プロポリス・サプリも試行中である。Mbali の養蜂の成分調査へ、学生派遣などの協力を仰ぐ(学部との覚書締結)。

☆ WWF（世界自然保護基金）DRC と環境省が、2017 年～2019 年に Mbali へ導入したハチミツ養蜂は、Ndowa 村を加えた全 8 村に技術を持つ村人が存在。昨年の予備調査情報と違い、うち 4 村では養蜂箱を維持して採蜜、自家消費や近隣販売が継続していた。必要機材を整備して再開する。

## ② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

### ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援
2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング
3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

- ・ 中村理事が 6 月に 3 週間の現地取材を行い、マルミミゾウ、ゴリラを初めとする野生動物映像を、大量に確保することができた。今後の広報素材として、編集への協力を仰ぎながら幅広く活用していく。
- ・ 現地は公園所長が交代し、エコツアー用宿泊設備整備などが急ピッチで進んでいた。
- ・ 6 月は Gambeya、Mangu Sauvage (*Irvingia* spp. ; 野生マンゴー) が大豊作で、豊作過ぎて類人猿は分散していた。Pont Casse のトランゼクトで、アシスタントチームがゴリラとチンパンジーの遭遇を観察した。
- ・ 資金減少の中、6 つのバイの多様性モニタリングを回す策を、WWF ロベケ技術アドバイザーと検討した。
- ・ プチ・サバナのマルミミゾウ利用頻度が増し、植生がエレファントグラスに一変。カヤツリグサを利用するゴリラなどの動物が移動してしまう可能性があり、エコツアースポットとしてモニタリングが重要。

### イ コンゴ民主共和国 (DRC) マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践
2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの地場産業開発を通じた生物多様性保全

- ・ 1. は地球環境基金「つづける助成」によって、DRC のボノボ・エコツアー復興のための活動を行った。Nkala～Mpelu 間で確認された、Lekwa グループの追跡を約 1 年継続したが、観察頻度は低いままだった。
- ・ 2. の活動は、①で詳述したプロポリス養蜂導入と、2016 年に導入しかけたホロホロチョウの蓄養を展開する。7 月には現地で、その準備に必要な新たな協働先の検討や、8 村の班員選抜などを行った。

## ③ 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

### ア ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

1. TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援

- ・ アジアゾウ保護に向けた大型プロジェクトは、資金調達の目途が立たず、具体的活動は開始できなかった。

アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・ 設立 5 周年にロゴ制作や Mozo の展示企画で協力を得た、HIROYUKI MIZUNO デザインに今後の広報戦略の方向性などを相談した。ホームページは、昨今は団体の基本情報の格納場所程度の役割で、アウトリーチは SNS を中心に展開する原則を確認したが、当法人独自の広報計画策定には至っていない。
- ・ 若手アシスタント（アフリカ人類学）とボランティア 2 人（獣医・芸術系）の持ち味を活かした、現地コミュニティ向け活動パンフレット作成を開始した。冬のクラファンでは、日本向けの活用機会を作りたい。

<その他の事業>

### ① 書籍の出版・販売

活動資金拡大に伴う海外出張の対応に時間を取られるため、今年度も行わなかった。

※ 今期予算進捗（2023 年 8 月～2024 年 7 月）に関して、決算報告書と監査報告書を添付する。 以上